

参考データ集

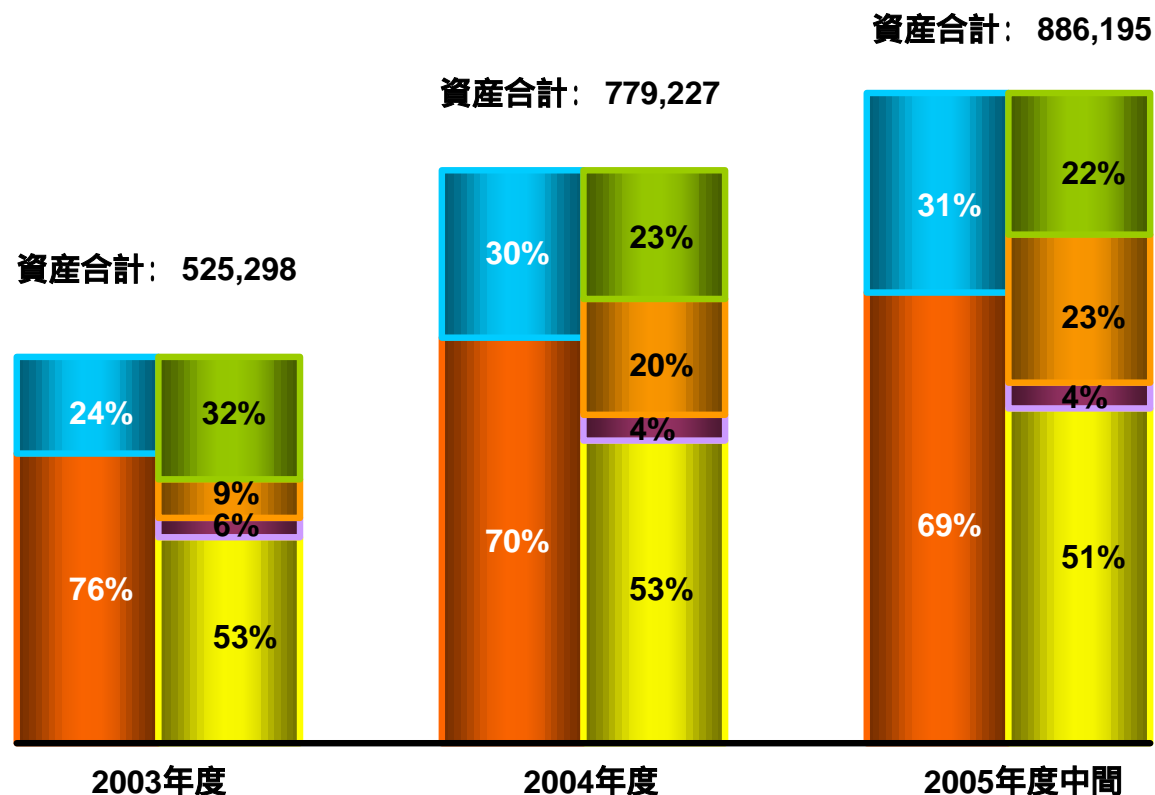
2005年度中間単体決算ハイライト

	04年度中間	05年度中間	増減	増減率
売上高(億円)	952	1,202	250	26.3%
営業利益(億円)	500	753	252	50.5%
経常利益(億円)	506	776	270	53.3%
当期純利益(億円)	217	349	131	60.7%
(1株当たり中間純利益(円))*	(11,587.35)	(18,194.20)	(6,606.85)	57.0%

*期中平均株式数(2005年中間期1,919,832株、2004年中間期1,876,337株)により計算した。なお、2004年中間期はジャパン石油開発を完全子会社とする株式交換により期中(2004年5月17日)に発行済み株式数が増加したため、期中平均株式数は2005中間期に比べ少なくなっている。

連結貸借対照表概要

(百万円)

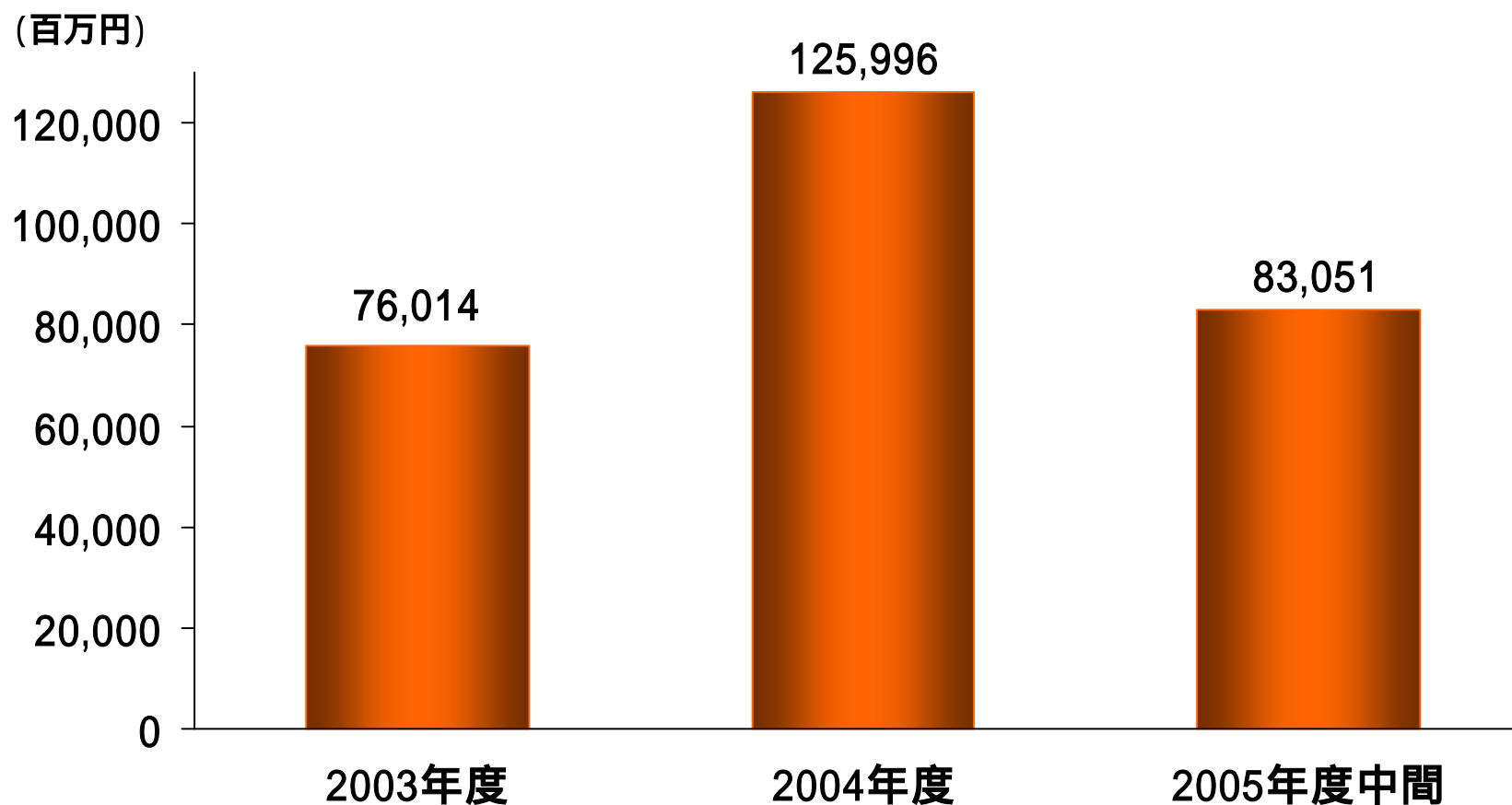


■ 現金及び預金*+有価証券** ■ その他資産 ■ 有利子負債 ■ その他負債 ■ 少数株主持分 ■ 資本合計

注: * 担保に供している定期預金が2003年度は9,140百万円、2004年度は8,200百万円、2005年度中間は8,610百万円含まれている。

** 国債・地方債・社債等(時価のあるもの)。

利払い・償却・探鉱費前利益(EBIDAX)*

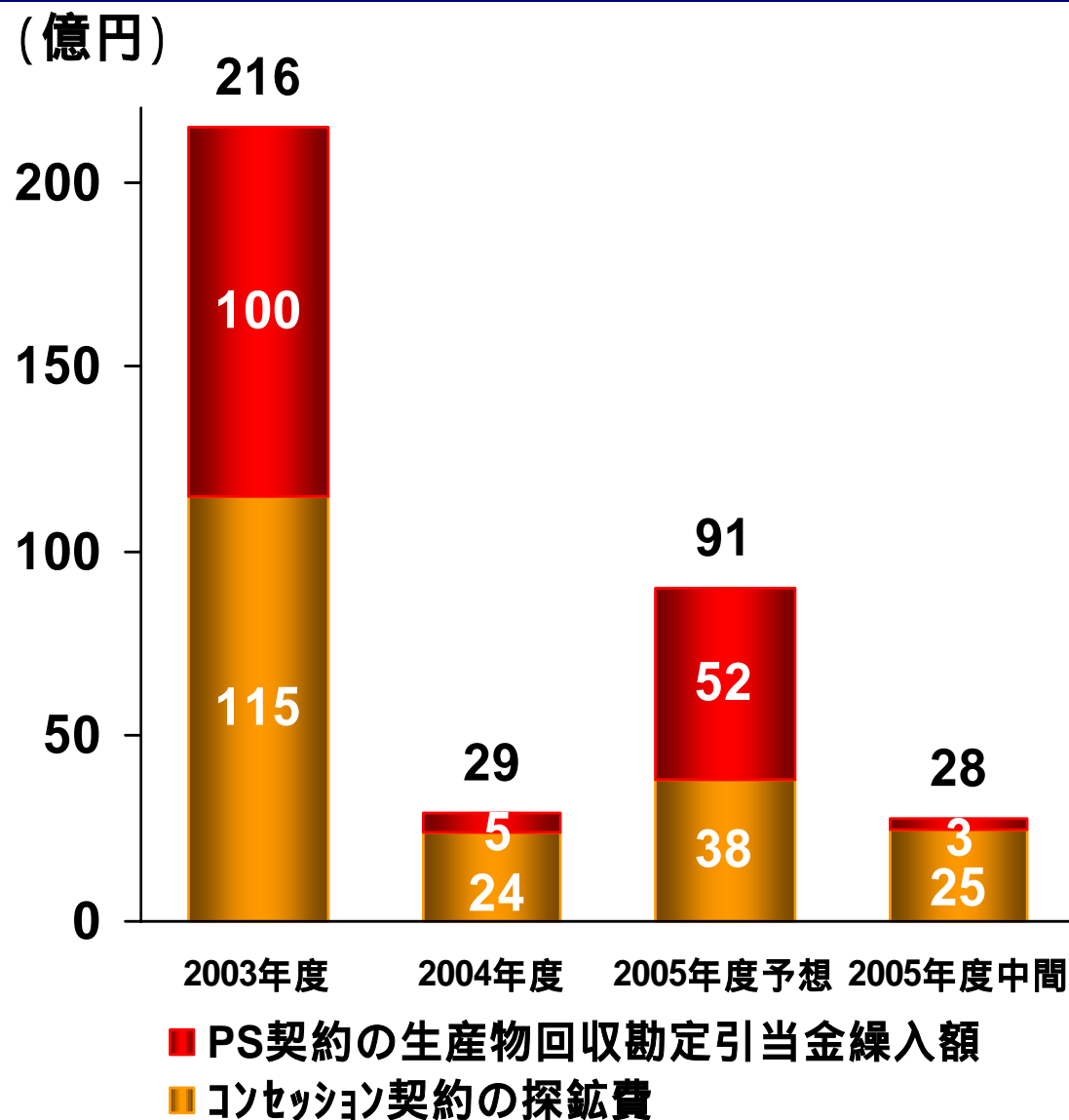


注：* 当期純利益+少数株主損益+法人税等調整額+(1-実効税率)×(支払利息-受取利息)+(減価償却費+生産物回収勘定(資本支出)の回収額)
+(探鉱費+生産物回収勘定引当金繰入額)+探鉱開発権償却+為替差損益
当社のEBIDAXは、他社のEBIDAX又は同様の指標と直接比較できない可能性があります。

EBIDAXの計算詳細(2005年度中間)

	INPEX	出所	備考
当期純利益	51,659	P/L	
少数株主損益	27	P/L	
減価償却相当額	29,294		
減価償却費	6,610	C/F	コンセッション契約及び販管費に係る減価償却費
生産物回収勘定(資本支出)の 回収額	22,684	C/F	PS契約に係る減価償却費
探鉱費相当額	2,828		
探鉱費	2,519	P/L	コンセッション契約に係る探鉱費
生産物回収勘定引当金繰入額	309	P/L	PS契約に係る探鉱費
重要な非現金項目	366		
法人税等調整額	5,159	P/L	
為替差損益	4,793	C/F	
探鉱開発権償却	46	P/L	探鉱中資産の取得に係る現金拋出
税引後ネット支払利息	383	P/L	税引後の支払利息 - 受取利息
EBIDAX	83,051		

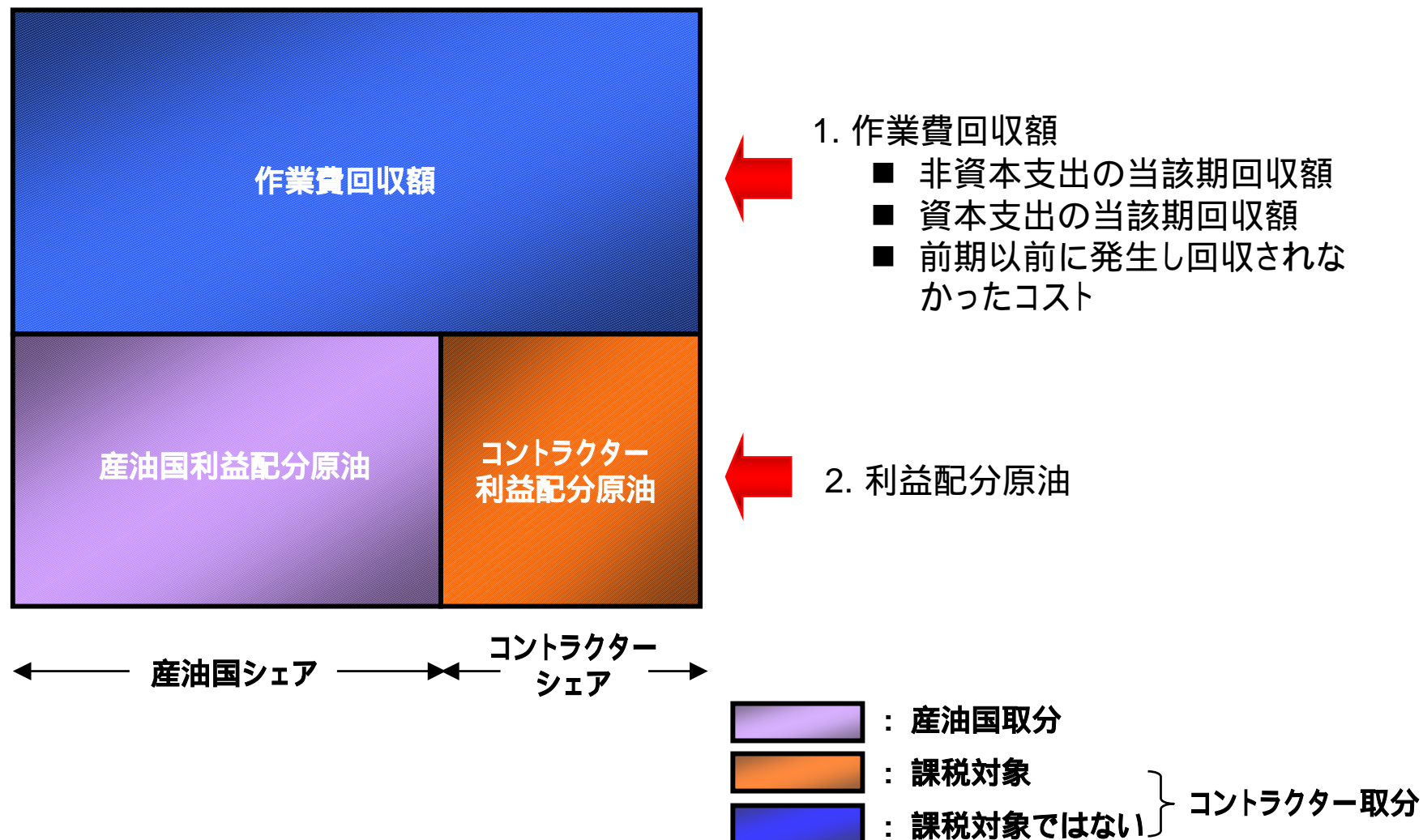
探鉱費相当額



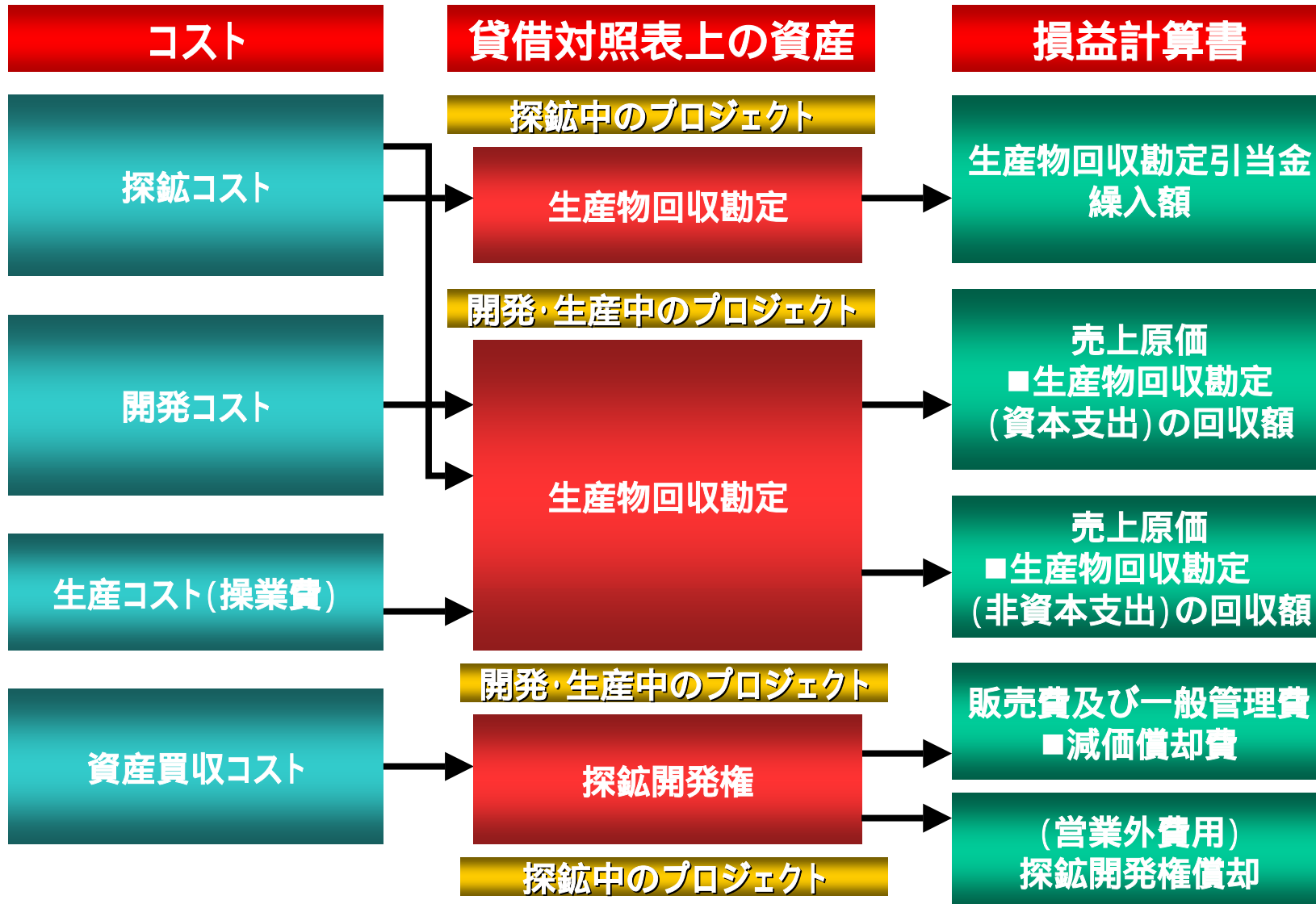
主な石油契約の概要

鉱区	国・地域	石油契約
マハカム沖 / アタカユニット	インドネシア	PS契約
南ナトゥナ海B	インドネシア	PS契約
ベラウ(タンゲー)	インドネシア	PS契約
マセラ(アバディ)	インドネシア	PS契約
JPDA03-12(バユ・ウンダン)	チモール海共同石油開発地域	PS契約
WA-10-L(グリフィン油田群)	オーストラリア	コンセッション契約
WA-285-P(イクシス)	オーストラリア	コンセッション契約
北カスピ海沖合(カシャガン他)	カザフスタン	PS契約
ACG油田	アゼルバイジャン	PS契約
ウムシャイフ / ローワーザクム / アッパーザクム油田等	アラブ首長国連邦	コンセッション契約
アザデガン油田	イラン	サービス契約

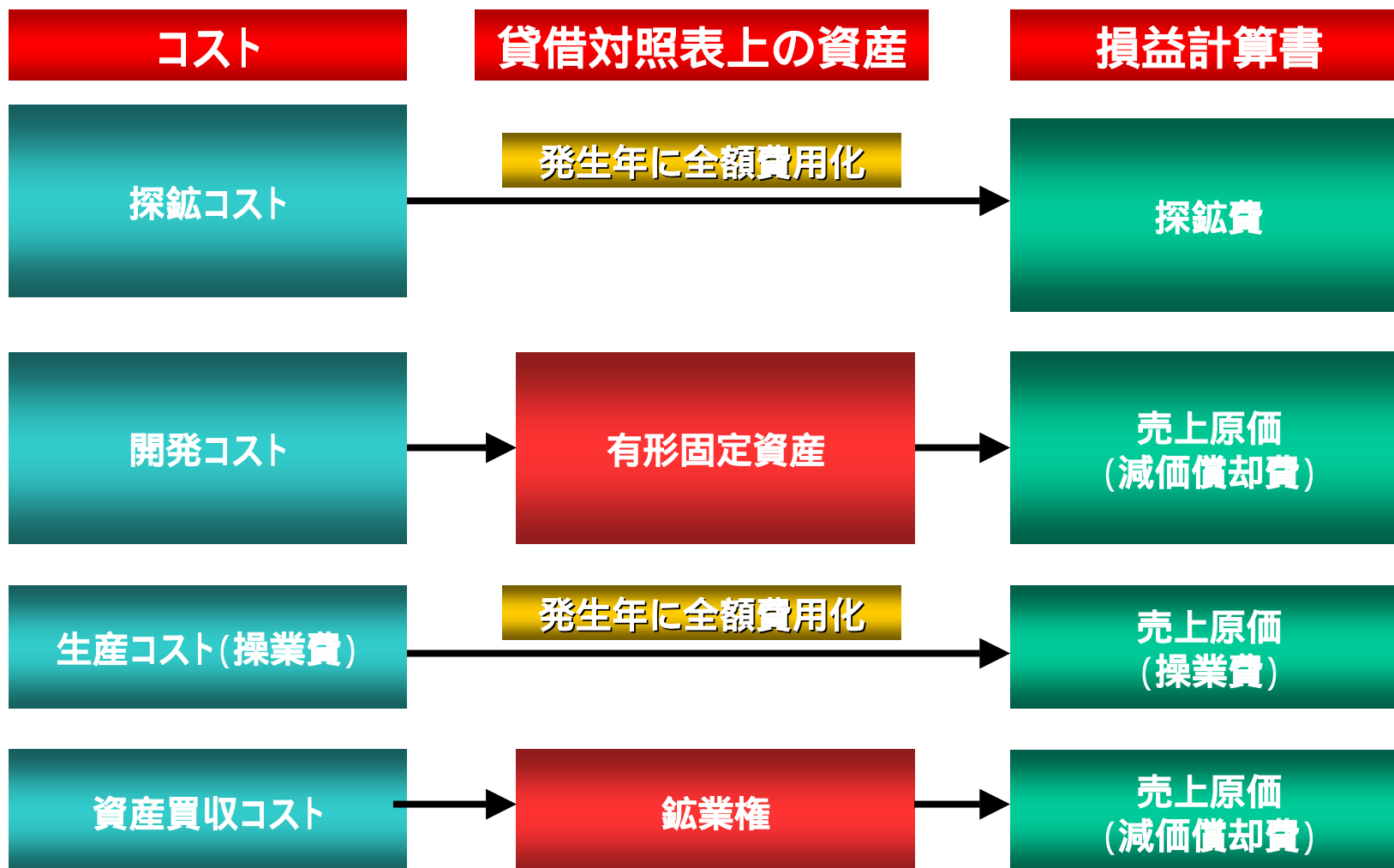
生産分与契約



生産分与契約に係る会計処理



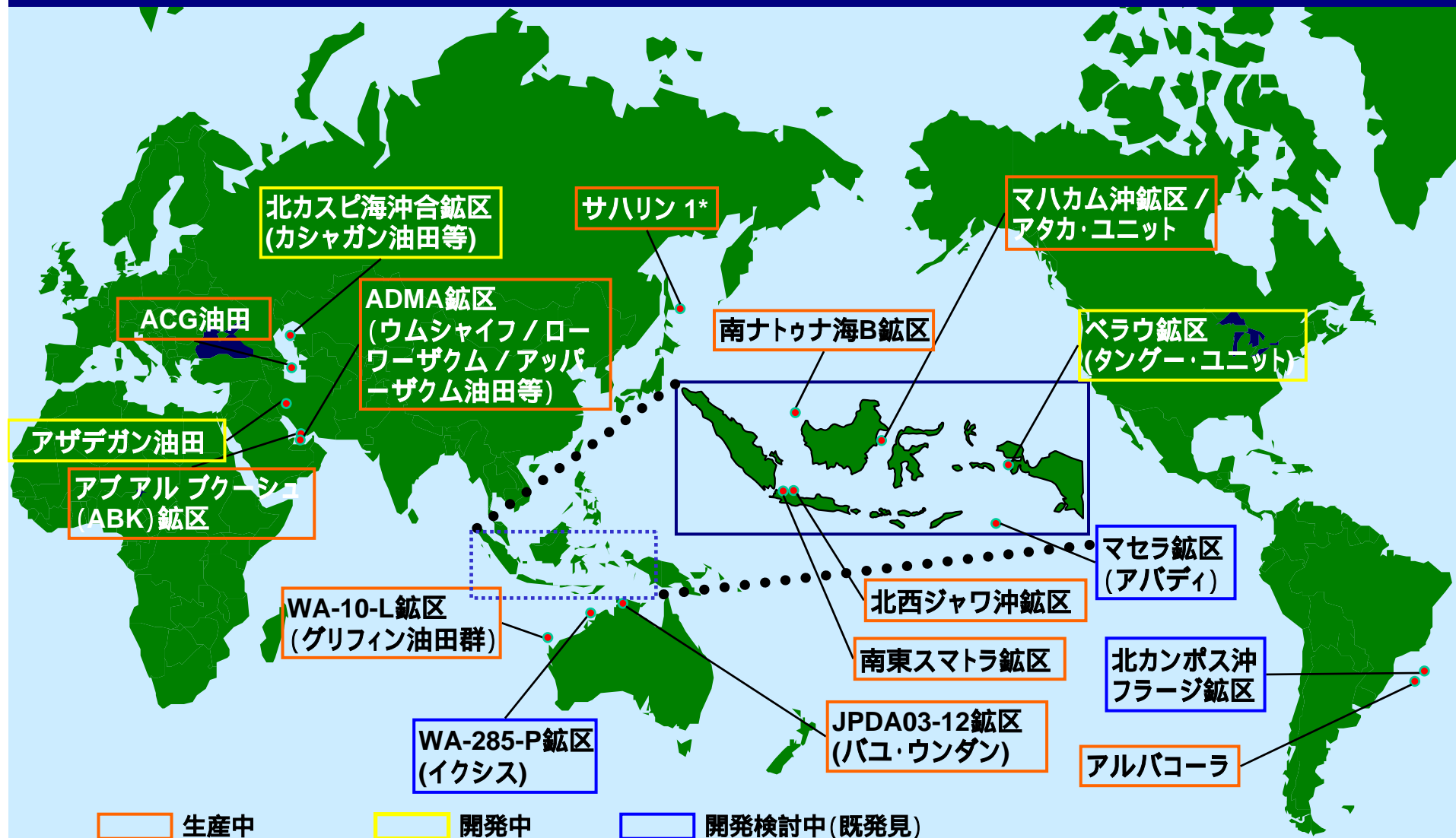
コンセッション契約に係る会計処理



JODCOの財務条件変更

- 2004年1月から上部ザクム油田の税金等の財務条件の優遇措置は段階的に廃止
- 2006年1月からは完全に廃止
- 優遇措置の段階的な廃止による今期業績への影響は、前期と同様の優遇措置を受けていた場合に比べ、売上高は影響を受けませんが、当期純利益は減少
- 5油田のうち、ウムシャイフ/下部ザクム油田は、参加当時より優遇措置を受けていない
- ウムアダルク・サター油田は変更なく、油価に連動し、売上高・当期純利益が変動

主なプロジェクトの地理的位



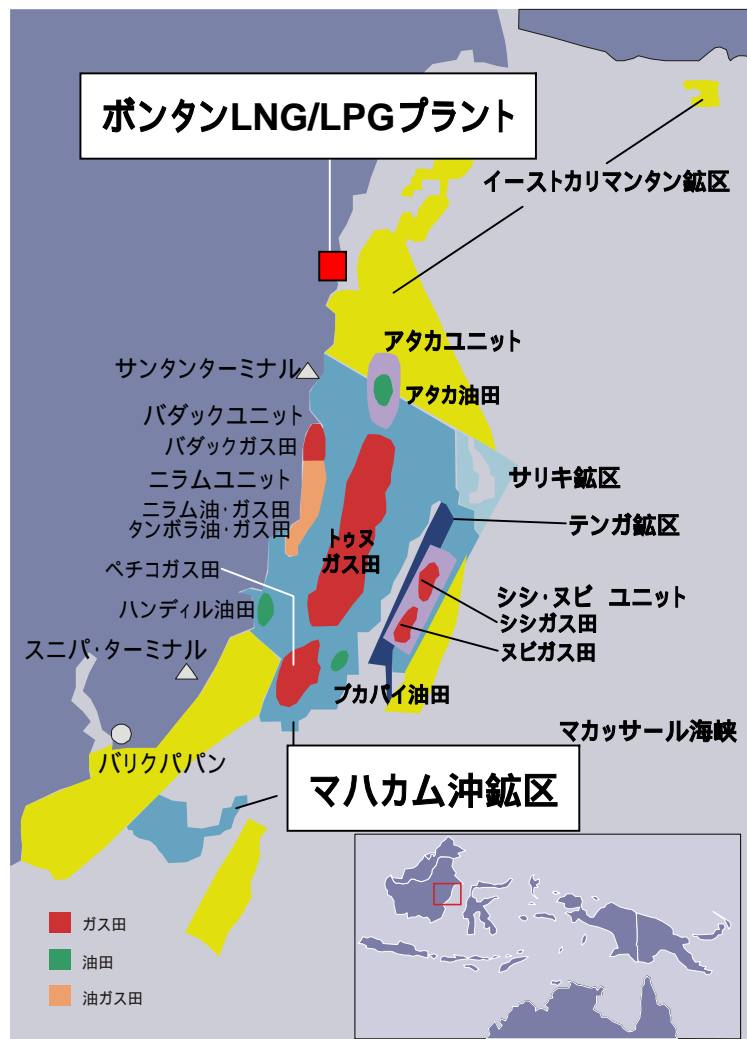
注: * 現在、経済産業大臣が保有するサハリン石油ガス開発の株式取得については今後協議することとなっている。

INPEXグループの主要出資先会社

会社名	鉱区名又はプロジェクト名	国名	INPEX出資比率	ステージ
東南アジア/オセアニア				
国際石油開発 (INPEX)	マハカム沖鉱区	インドネシア		生産中
ナトゥナ石油	南ナトゥナ海B鉱区	インドネシア	100%	生産中
MI Berau B.V.	ベラウ鉱区(タンゲーLNG)	インドネシア	44%	開発中
インペックスマセラアラフラ海石油	マセラ鉱区(アバディ)*	インドネシア	50%	開発検討中
サウル石油	バユ・ウンダン	チモール海	100%	生産中
共同石油開発地域				
インペックス西豪州ブラウズ石油	WA-285-P鉱区(イクシス)*	オーストラリア	100%	開発検討中
中東				
ジャパン石油開発	ADMA鉱区(ウムシャイフ/ロ-ワー・アッパ-ザクム油田等)	アラブ首長国連邦	100%	生産中
アザデガン石油開発	アザデガン油田*	イラン	100%	開発中
カスピ海沿岸・その他				
インペックス南西カスピ海石油	ACG油田	アゼルバイジャン	51%	生産中
インペックス北カスピ海石油	カシャガン油田	カザフスタン	45%	開発中

注: * INPEXグループがオペレーター。

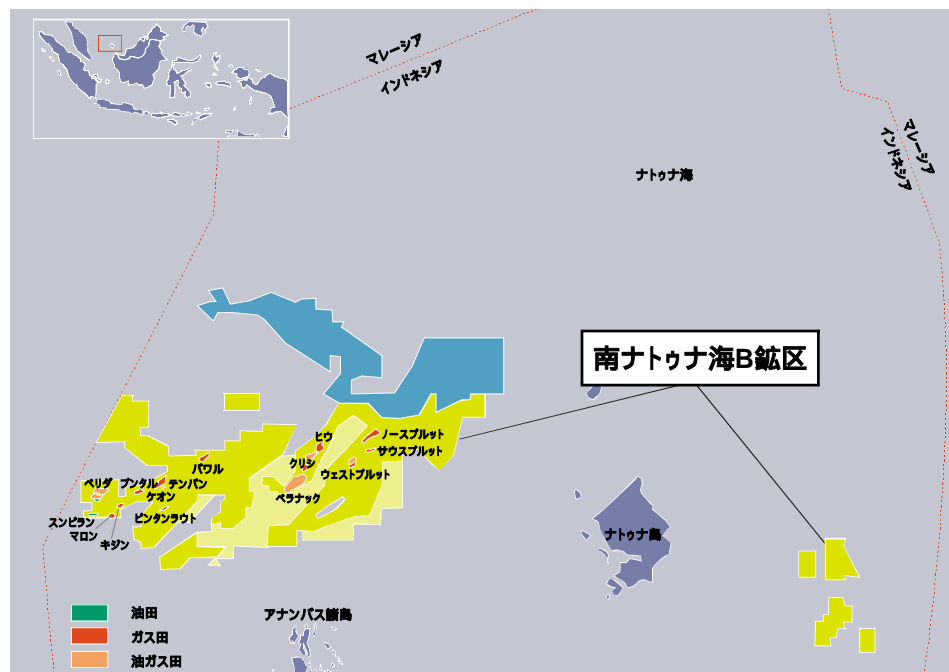
マハカム沖鉱区 国際石油開発 (INPEX)



注: *全鉱区ベース、2005年4月-6月平均日産量

- 当社権益比率: 50%
- 生産量*
 - 原油: 日量約6万4千バレル
 - 天然ガス: 日量約26億立方フィート
- PS契約: 2017年まで
- ポンタンLNG基地へのガス安定供給を目的として開発作業を継続
 - トゥヌノペチコ油・ガス田の段階的開発
 - タンボラ油・ガス田の追加開発
 - シシノヌビ ガス田の開発

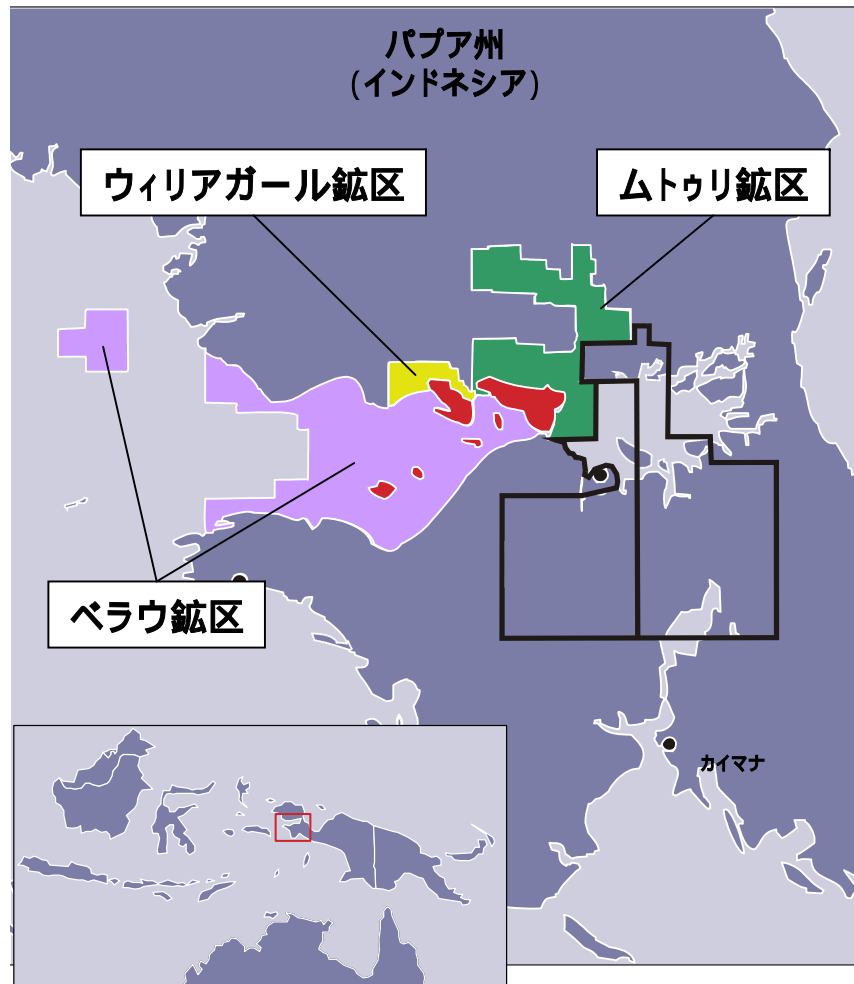
南ナトゥナ海B鉱区 ナトゥナ石油



注: * 全鉱区ベース、2005年4月-6月平均日産量

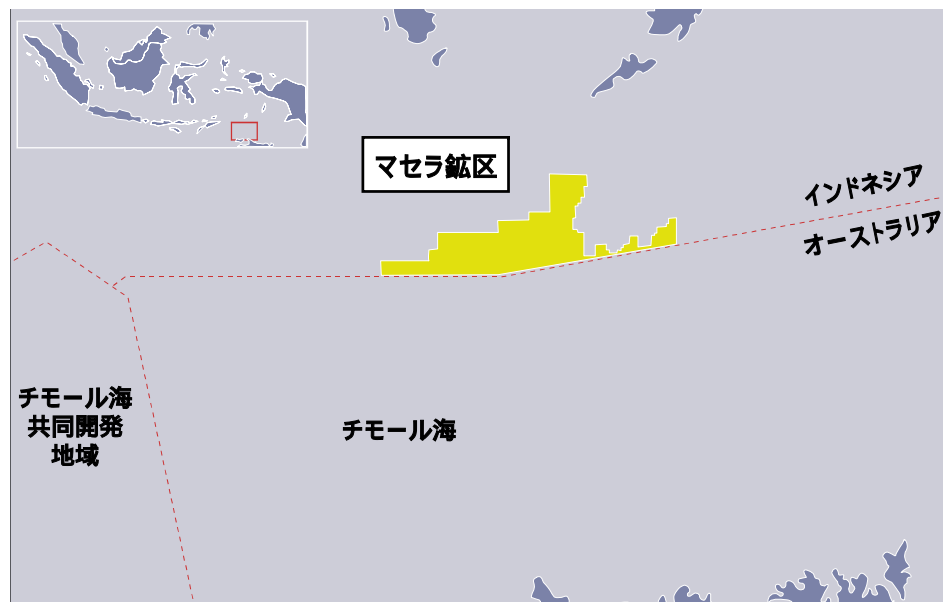
- 当社権益比率: 35.0%
- 生産量*:
 - 原油: 日量約5万4千バレル
 - 天然ガス: 日量約3億6千万立方フィート
- PS契約: 2028年まで
- SembCorp社(シンガポール)と2001年より22年間、Petronas(マレーシア)と2002年より20年間の天然ガス販売契約締結
- 2004年12月ベラナック油ガス田生産開始
- ヒウガス田は2006年、クリシ油ガス田は2007年生産開始予定

ベラウ鉱区(タンゲーLNGプロジェクト) MI Berau B.V.



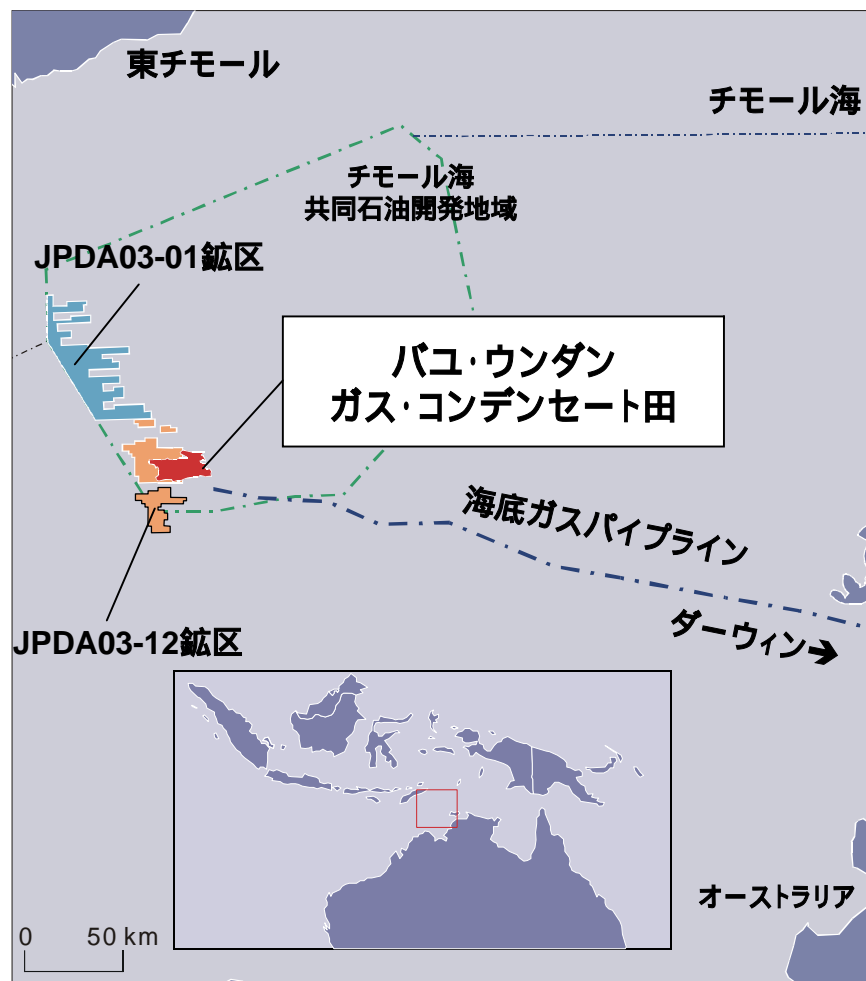
- MI Berau: 三菱商事とのJV
- MI Berauの権益比率
 - ベラウ鉱区: 22.9%(タンゲー・ユニット: 16.3%)
- PS契約: 2035年まで
- インドネシア政府より、開発計画、生産分与契約の延長についての承認取得
- 建設中のLNGプラントは2008年後半生産開始予定
 - 年間760万トンのLNGを生産する計画
 - 中国福建省向けLNG長期販売契約を締結
 - 韓国POSCO社及びK-Power社とLNG販売契約を締結
 - 米国Sempra Energy社とLNG販売契約を締結

マセラ鉱区(アバディ) インペックスマセラアラフラ海石油



- 当社権益比率: 100.0%
- オペレーター: 当社
- PS契約:
 - 探鉱期間10年間(2008年まで)
 - 開発・生産期間30年間(2028年まで)
- 2000年、試掘井アバディ1号にて天然ガスを発見
- 2002年に評価井2坑を掘削、アバディ構造が大規模ガス田であることを確認
- 2006年に評価井4坑の掘削を予定

バユ・ウندان サウル石油



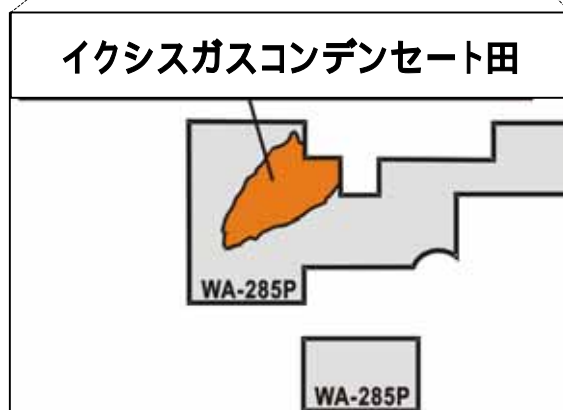
注: * JPDA03-12(エラン・カクタウアを含む)全鉦区ベース、2005年4月-6月平均日産量

- 当社権益比率: 10.53%
- 生産量*:
 - 原油・コンデンセート: 日量約3万9千バレル
 - LPG: 日量約1万6千バレル
- PS契約: 2022年まで
- コンデンセート及びLPGの生産を目的としたフェーズ1開発作業については、2004年2月にコンデンセート、4月にLPG生産開始
- フェーズ2はLNGプロジェクト(2006年販売開始)
 - 東京電力/東京ガスとLNG販売契約締結(年間300万トン、17年間)

WA-285-P鉦区(イクシス) インペックス西豪州ブラウズ石油

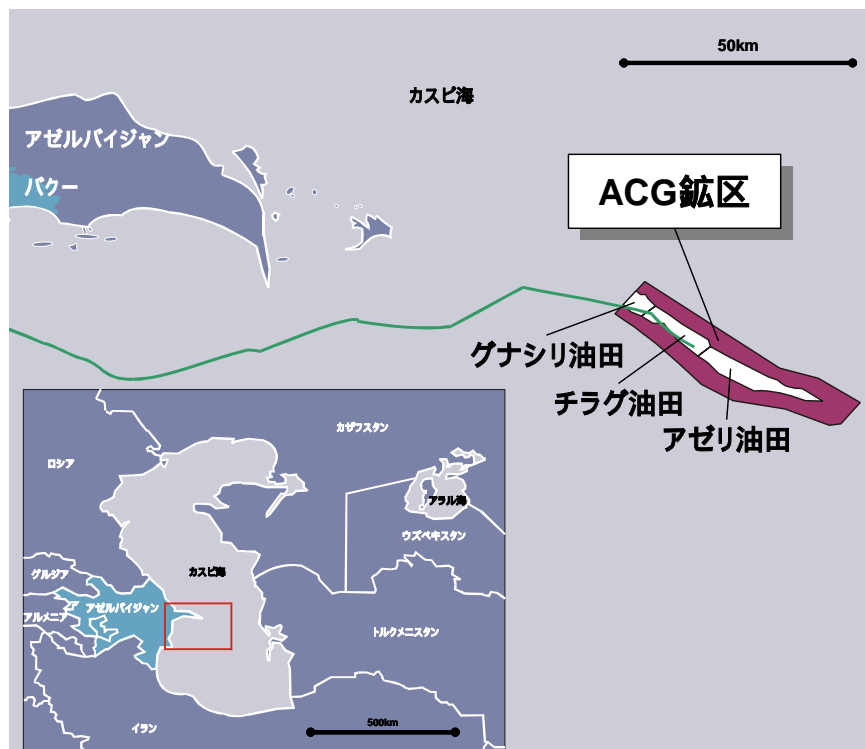


イクシスガスコンデンセート田



- 当社権益比率: 100.0%
- オペレーター: 当社
- 利権契約:
 - 探鉦期間 2009年9月まで
 - 生産期間 生産ライセンス付与から21年
- 第1次掘削キャンペーン3坑(2000 - 2001)により大規模天然ガス・コンデンセート田を発見、イクシス構造と命名
- 第2次掘削キャンペーン3坑(2003 - 2004)により本構造全体に天然ガス・コンデンセート層が連続して分布することを確認
- 2010年乃至それ以降の生産開始を目標に事業化検討作業を実施中

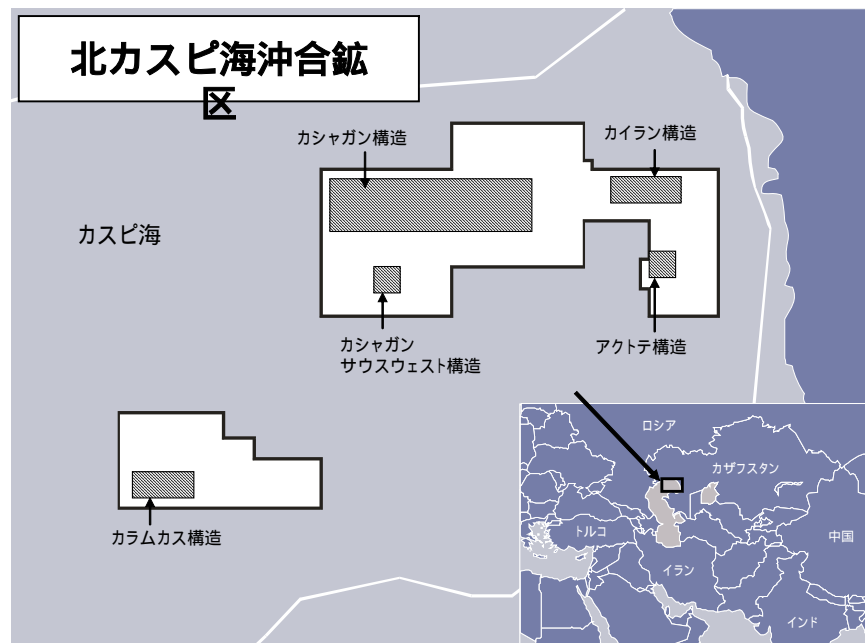
ACG油田 インペックス南西カスピ海石油



注: * 全鉱区ベース、2005年4月-6月平均日産量

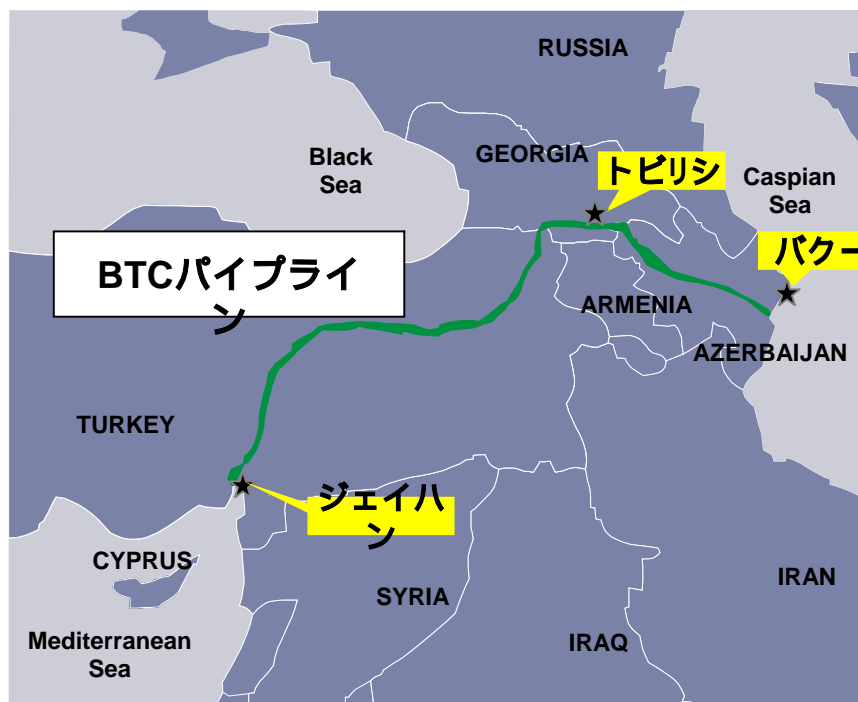
- 当社権益比率: 10.0%
- 生産量*: 日量約24万4千バレル
- PS契約: 2024年まで
- チラグ油田で早期原油生産を実施中、2005年2月アゼリ油田中央部(フェーズ1)生産開始
- BTCパイプラインが2005年完成予定
- 段階的に日量100万バレルまでの増産を計画
 - フェーズ2開発(アゼリ西部・東部) 2006年生産開始予定
 - フェーズ3開発(グナシリ深海部 / チラグ西部) 2008年生産開始予定

カシャガン油田他 インペックス北カスピ海石油



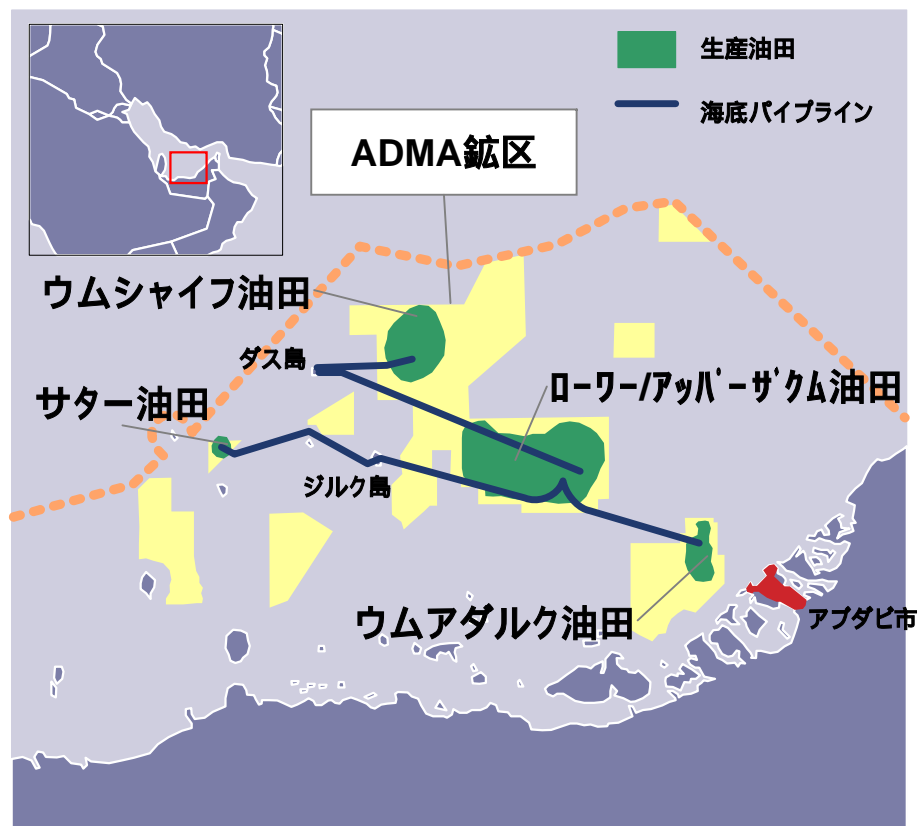
- 当社権益比率: 8.33%
- PS契約: 2021年末まで
- 2000年6月カシャガンにおいて原油発見、2004年4月までに試・探掘井7坑で原油を確認
- カシャガン油田以外にもカラムカス/アクトテ/カイラン/南西カシャガンの4構造にて炭化水素の存在を確認
- 2004年2月カシャガン開発計画のカザフスタン政府承認
 - 2008年に日量7万5千バレルで生産開始を予定、その後開発地域を広げ段階的に日量120万バレルまでの増産を計画

BTC (BakuTbilisiCeyhan) パイラインプロジェクト INPEX BTC Pipeline, Ltd.



- 当社権益比率:2.5%
- 2002年10月に操業会社BTC Co.の発行済み株式をINPEX BTC Pipeline, Ltd.を通じて取得
- 将来カスピ海で生産される原油の搬出路確保を目的として参画
- 2004年2月、パイプライン建設の資金調達を目的とするプロジェクトファイナンス契約調印
 - 現在パイプライン建設作業を実施中
 - パイプラインの稼動開始は2005年12月を予定

ADMA鉦区 ジャパン石油開発



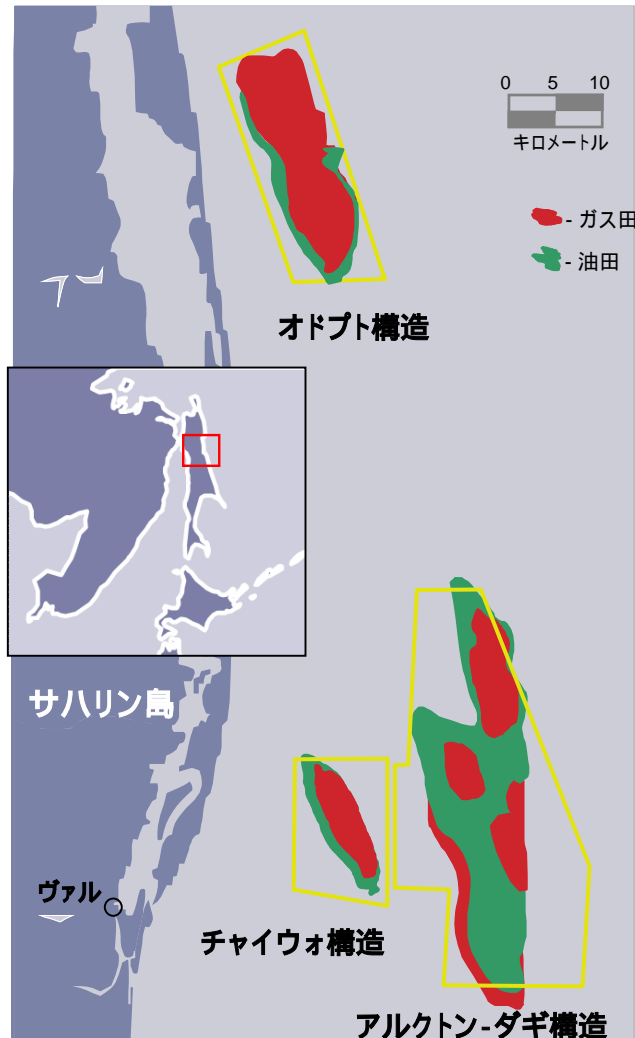
- ウムシャイフ / ローワーザクム
 - 当社権益比率: 12.0%
- アッパーザクム / ウムアダルク / サター
 - 当社権益比率:
アッパーザクム / ウムアダルク
12.0%
サター 40.0%
- 利権契約: 2018年まで
- 生産量維持・拡大のため開発作業を継続中
 - 主要3油田(ウムシャイフ、ローワーザクム / アッパーザクム)で水圧入を実施
 - ウムシャイフでガス圧入を実施

アザデガン油田



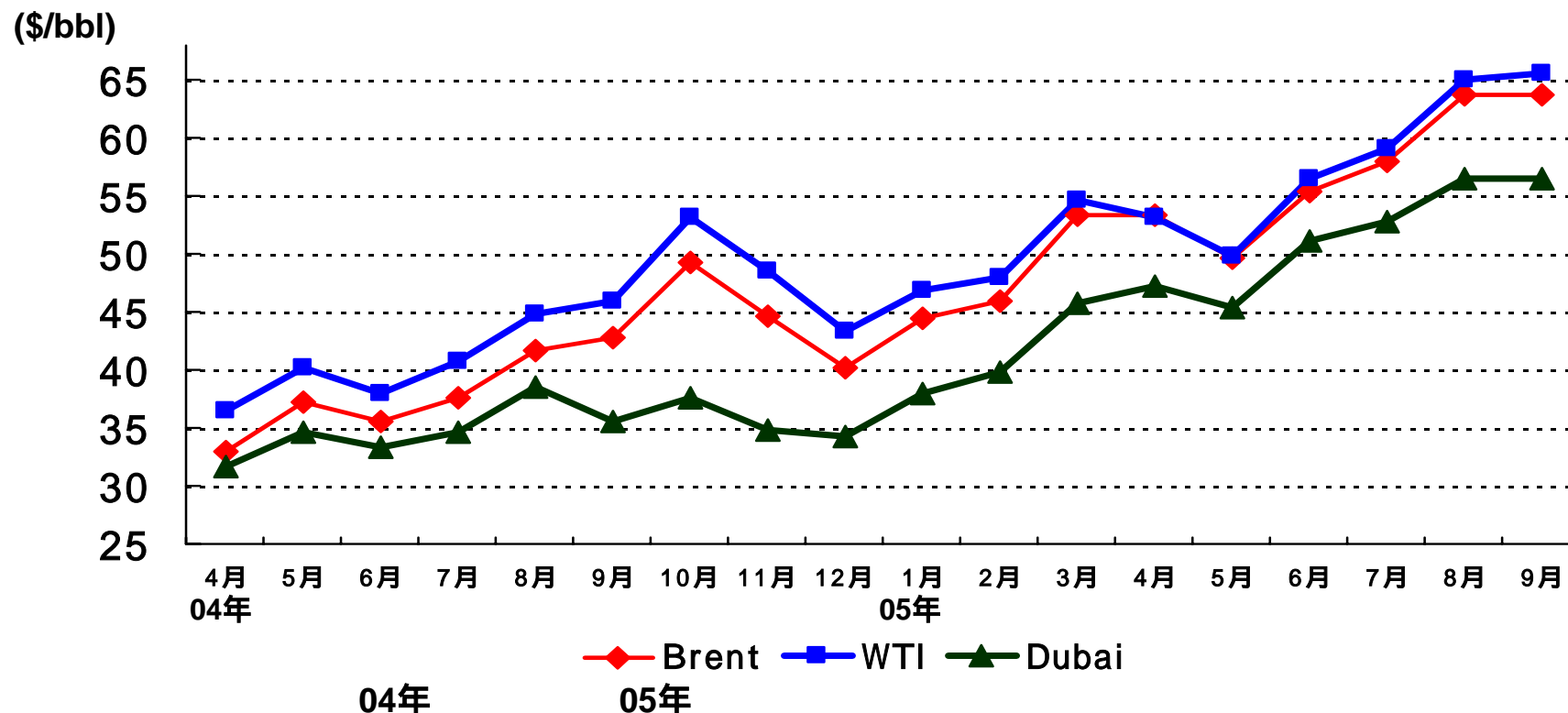
- 当社権益比率: 75.0%
- 目標生産量*: 日量約150,000バレル(開発第1段階)
- 当社はオペレーターとして参画
- サービス契約(バイバック契約)
- 油田開発プロジェクトは2段階
 - 開発第1段階として2008～09年に日量15万バレルの生産を達成を目標とする
 - 開発第2段階へ移行した場合、2012～13年に日量11万バレルの追加生産、合計日量26万バレルの生産に達する見込み。

サハリン プロジェクト サハリン石油ガス開発



- サハリン石油ガス開発(SODECO):
当社が4.3%の株式を保有
(石油公団が保有していた50%の株式は経済産業大臣が承継し、当社は諸条件が整えば、最大33%まで取得することについて今後協議予定)
- SODECOの権益比率
— サハリン : 30.0%
- オペレーター: ExxonMobil
- パートナー: ONGCヴィデッシュ、サハリンモルネフテガス・シェルフ、RNアストラ
- PS契約: 2001年12月、プロジェクトの「商業性宣言」がロシア政府より承認され、20年間の開発期間に移行
- 2005年10月生産開始、本格生産は2006年の予定(フェーズ1)
- 日本、中国等の市場への国際パイプラインによる天然ガス供給(フェーズ2)を前提としてマーケティング活動中

油価の推移



	04年	05年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	05年
	上半期平均	年度平均							上半期平均
Brent	39.97	42.14	53.31	49.67	55.42	57.95	63.80	63.80	57.32
WTI	41.10	45.07	53.22	49.87	56.42	59.03	64.99	65.55	58.18
Dubai	34.77	36.57	47.20	45.40	51.08	52.83	56.60	56.54	51.61

*BrentはIPE、WTIはNYMEX、DubaiはPlatt'sのデータ。